

ILB会 事例集

インターロッキングブロック舗装には、色々な特徴・メリットがあります
皆様にインターロッキングブロック舗装を知っていただけるよう、
ILB®製品問わず、ILB会会員会社の施工例をまとめました

視覚障害者誘導用 高品質黒色ブロック

ユニバーサルブラック サンヨー宇部株式会社

2015年8月 撮影



誘導用ブロックは弱視の人にもわかりやすいよう、周囲の路面との輝度比を2.0以上確保することが推奨されています。しかし、一般的なインターロッキングブロックは供用に伴うエイジングで輝度比が変化することがあります。

ユニバーサルブラックは、退色を抑えた黒色のブロックです。視覚障害者誘導用ブロックと並べて使用することで、経年変化による輝度比の減少を抑えることが可能です。

2023年 撮影



下の写真では8年が経過したことで舗装のエイジングが見られます。

景観に溶け込みながらも、弱視の人が誘導用ブロックを識別しやすい輝度比が保たれています。

山口県山口市 一の坂川交通交流広場

2015年8月施工

大型車両交通対応 舗装緑化ブロック

ターフメイク サンヨー宇部株式会社

大型ダンプ車(総重量約22トン) 1500回以上の走行試験を行い良好な結果を得られており、工場や流通施設の駐車場緑化におすすめです。

緑化ブロックでトップクラスとなる、65%の高い緑化率を実現。独自の突起形状で芝の連続繁茂と保護に優れます。

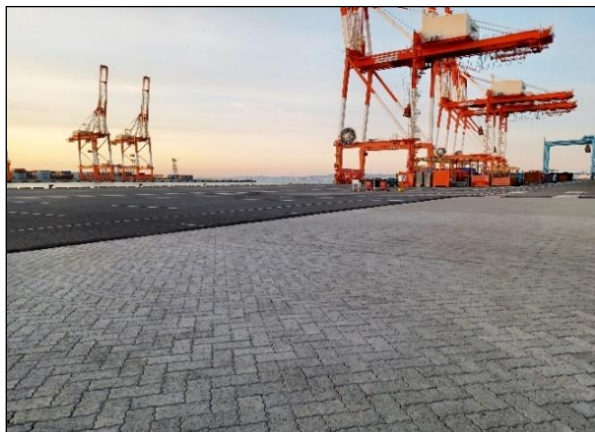
山口県周南市 東ソー(株)南陽事業所

2020年7月施工



重交通・重荷重対応 インターロッキングブロック舗装

ハイパーロードシステム 太平洋プレコン工業株式会社



コンテナヤードのような、輪荷重5トンを超える特殊荷役車両が走行する重荷重エリアには舗装にかかる負荷が大きく、補修工事を頻繁に行う必要がありました。そこで、海外のコンテナターミナルなどでは多く使用されているインターロッキングブロック舗装を適用するため、考えられたのがハイパーロードシステムです。荷重伝達性に優れたブロックと、ブロックを支える端部拘束、細粒化抵抗性に優れた敷砂・目地砂、路盤を浸透水から守るための排水用不織布巻き導水管などの副資材を組み合わせることによって、重荷重・重交通エリアでも、インターロッキングブロックの高いメンテナンス性や即時開放できる工法を活かすことができるようになりました。



写真上

神奈川県横浜市 横浜港南本牧ふ頭コンテナターミナル
2022年1月施工

写真下

神奈川県三浦市 三崎口駅前 京浜急行バス待機場
2023年1月施工

製品に関する問い合わせは
お近くのILB会 会員会社もしくはILB会事務局まで

ILB会 会員会社

太平洋プレコン工業株式会社
久保田セメント工業株式会社
マテラス青梅工業株式会社 東北事業部
株式会社吉田レミコン

野村マテリアルプロダクツ株式会社
日本コンクリート株式会社
北海道スプリットン工業株式会社
サンヨー宇部株式会社

事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-13-9 太平洋不動産新宿ビル3階
TEL 03-3350-0746 FAX 03-3352-0793 Mail info@ilbkai.com